

# 全文検索くん操作説明(Pro 版)

全文検索くん

内容文の検索 追加アイテム 検索 画面

検索履歴: 検索 画面 x

拡張子	ファイル	概要	日付	
TXT	notable...	かつさま イ	2022...	開く
LOG	Lic_ch...	2019-09-30	2019...	開く
PDF	戦後日...	PageInfoExt	2019...	開く
MSG	test att...	test attache	2017...	開く
CSV	祝いリ...	画面 検索	2017...	開く
DOCX	Manual...	Search++ M	2017...	開く
DOCX	Manual...	Search++ M	2017...	開く
XLSM	ファシ...	自分自身のチ	2016...	開く
XLSM	ファシ...	自分自身のチ	2016...	開く
JTD	manual...	全文検索くん	2016...	開く

総計 418 件 10件/ページ 1 2 3 4 5 6 ...

かつさま  
インデックスの構築は成功しました。(22キ  
ただし、以下の問題があります。  
1. 検索結果の画面で検索の文字列に色が  
色がつかないと見にくいです。  
添付エクセルをご覧ください。  
これはどこか設定が必要なのでしょうか。  
2. 検索文字列の選定の仕方において、ヒッ  
例えば  
「流動性製品のための容器の従来の1つのタ  
という文章において、(参考までにそのwor  
1) 「流動性製品のための容器の従来の1つ  
ヒットしますが、  
2) 「流動性製品のための容器の従来の1つ  
ットしません。  
これはどうしてなのでしょう。2) の方は、  
どのように文字列を選定したのでしょうか。

本ソフトウェアの最新版は 6.1.0.9 ですが、この説明書に変更のない画面について、旧バージョンのイメージをそのまま利用しています。

## 1. インストール

6.1.0.9 は以前のバージョンと比べると、最新のウェブ技術を利用しているので、ご利用 Windows のバージョンは Windows 7 以降 (Windows 7 を含む) になります。XP と Vista について、標準版をご利用ください。後、Pro 版は 64 ビット OS しかご利用できないので、予めご了承ください。

ZIP 版をご利用する場合は、ダウンロードした ZIP ファイルを指定したフォルダーに解凍します、インストールフォルダーについて、C:¥Program Files, C:¥Program Files(X86)以外 にしてください、上記フォルダーに入れると、OS の権限管理で動かなくなる可能性があります。(良い例 : C:¥Searchplusplus または D:¥SearchPlusPlus)

解凍が終わったら、本体の Searchplusplus.exe を実行してください。

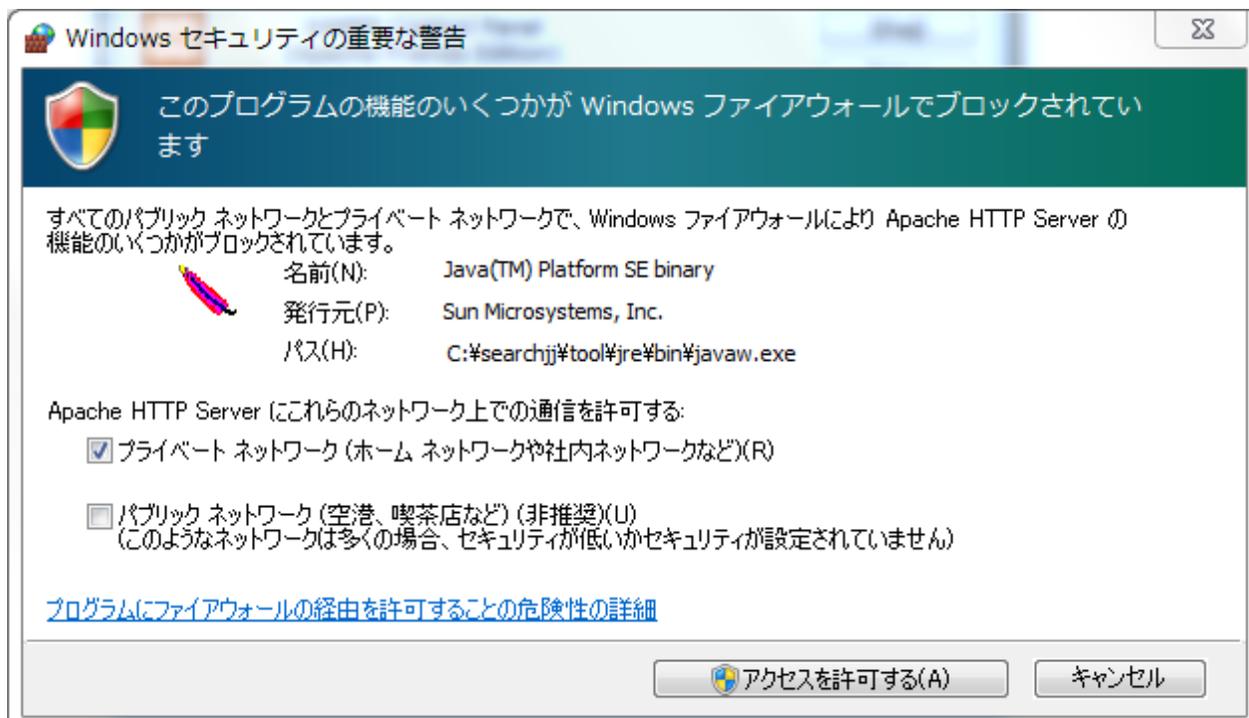
本ツールの複数インスタンスの同時実行は不可です。複数起動させたら、下記のメッセージが表示します。（この機能を実現させるため、本ツールは初回起動時ローカル PC に開いているポートを探して、設定ファイルに設定します。初回の実行でポートを探すため、時間がかかることがあります）

Zip ファイルを展開する際、“展開されたファイルがありません”のようなエラーメッセージが出た場合或は Zip 展開した後 SearchPlusPlus.exe を起動させた際、下記のようなエラーメッセージが出た場合、OS のコード設定が不正であることが考えられます。OS のコードを日本語に設定し直すか(<http://www.searchplusplus.jp/contact.html> の Q7 をご参照)、全文検索くんのインストールフォルダー名に日本語を使用しないことによって、問題解決できます。（例えば：c:\¥Searchplusplus または d:\¥searchplusplus にインストールする）

ZIP ファイルの解凍には、OS の既存機能を利用するか、7Zip などフリーツールを利用するかをしてください。



v4.0.0.8 から、HTTP サーバ機能を追加しましたので、OS から下記のような警告が出されましたが、許可してください。



導入設定画面が下記のように表示します。

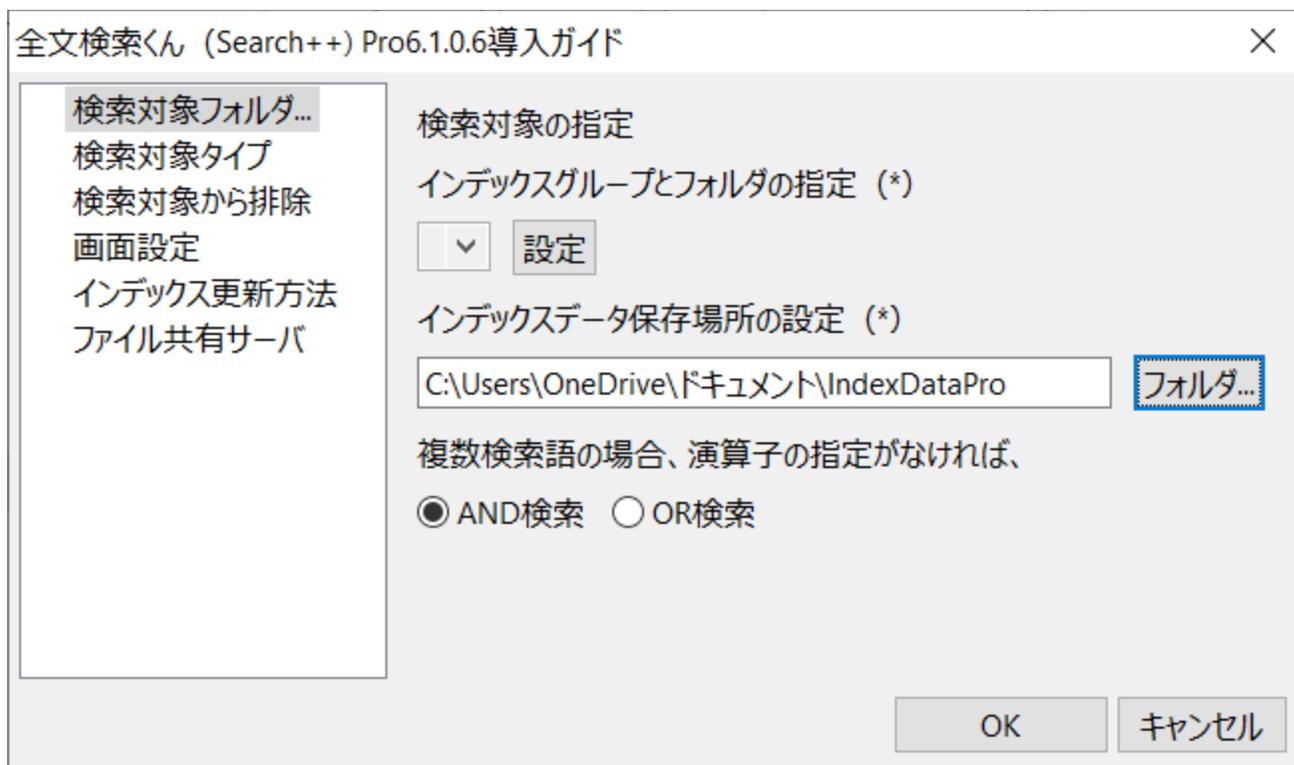


図1 オプション(検索データ)設定画面

検索対象として複数フォルダーを指定する場合は、上記画面にある「設定」ボタンを押して、図2のように、対象フォルダーの左側にあるチェックボックスにチェックを入れてください。サブフォルダーを検索対象から排除する場合、該当サブフォルダのチェックを外してください。図2で複数インデックスデータの作成が可能ですが、「インデックス名の指定」に名称を入力して、エンターキーを押せば、タブのタイトルに名称が表示され、インデックスグループ名の指定になります。画面の右上の「追加」、「削除」、「クリア」ボタンを押せば、タブの追加、削除及び設定のクリアができます。設定が終わったら、「OK」ボタンを押して、インデックスの作成が始まります。

インデックスを一時的に除外する場合、該当タブの上の「退避」をクリックしてください。退避したインデックスを復活するには、同じく「復活」ボタンをクリックしてください。該当インデックスを再作成には「再作成」にチェック入れてください。

検索対象フォルダの指定は、OSのフォルダツリーから Drag & Drop するかテキストボックスに直接入力するかで可能です。

上記設定が終わって、インデックスデータが作成されたら、図3のようにメイン画面でインデックスグループリストが表示され、グループリストを切り替えるが可能です。

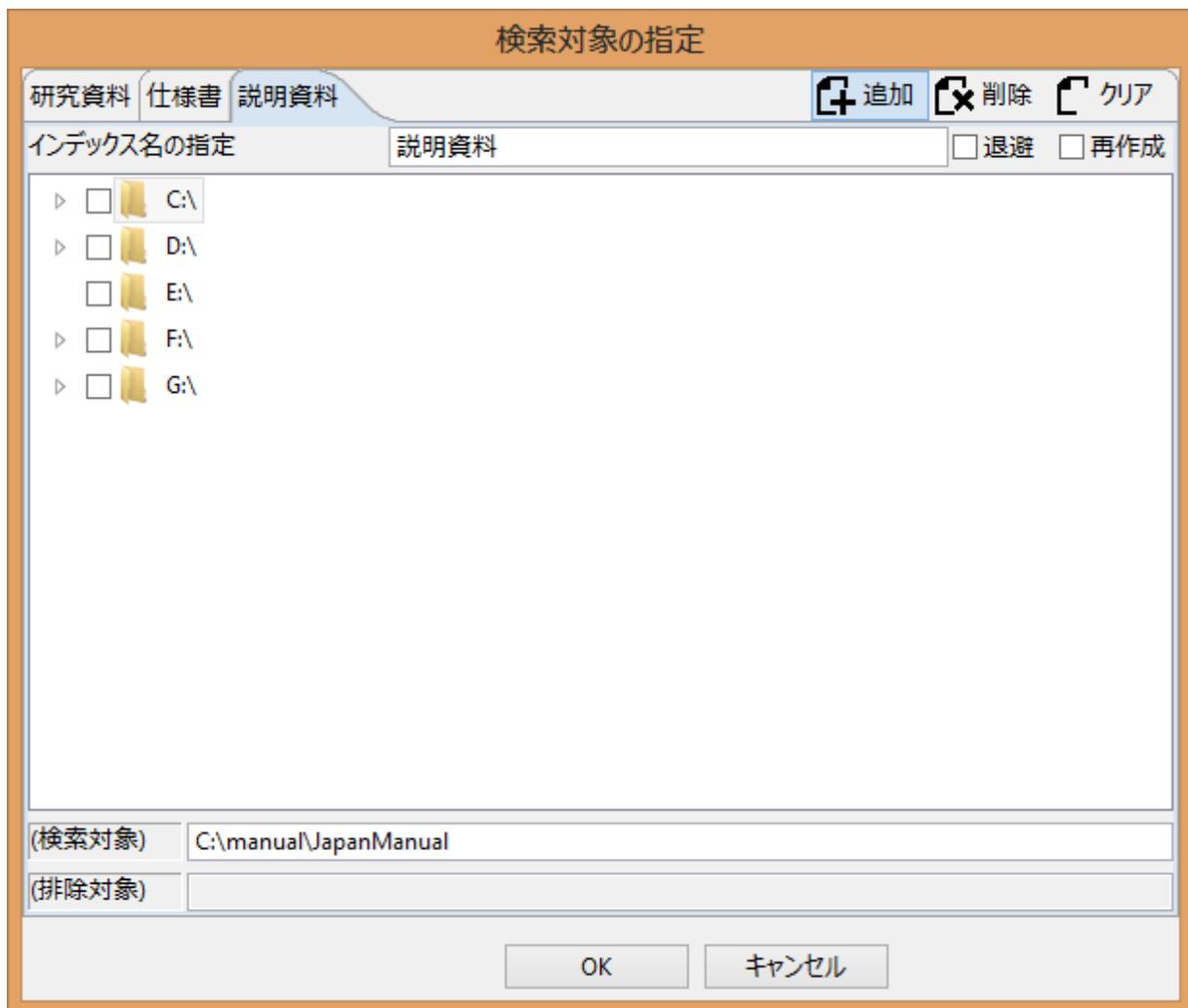


図2 チェックを入れる・外すによって検索対象フォルダーを指定・排除



図3 メイン画面で検索対象の切り替えが可能

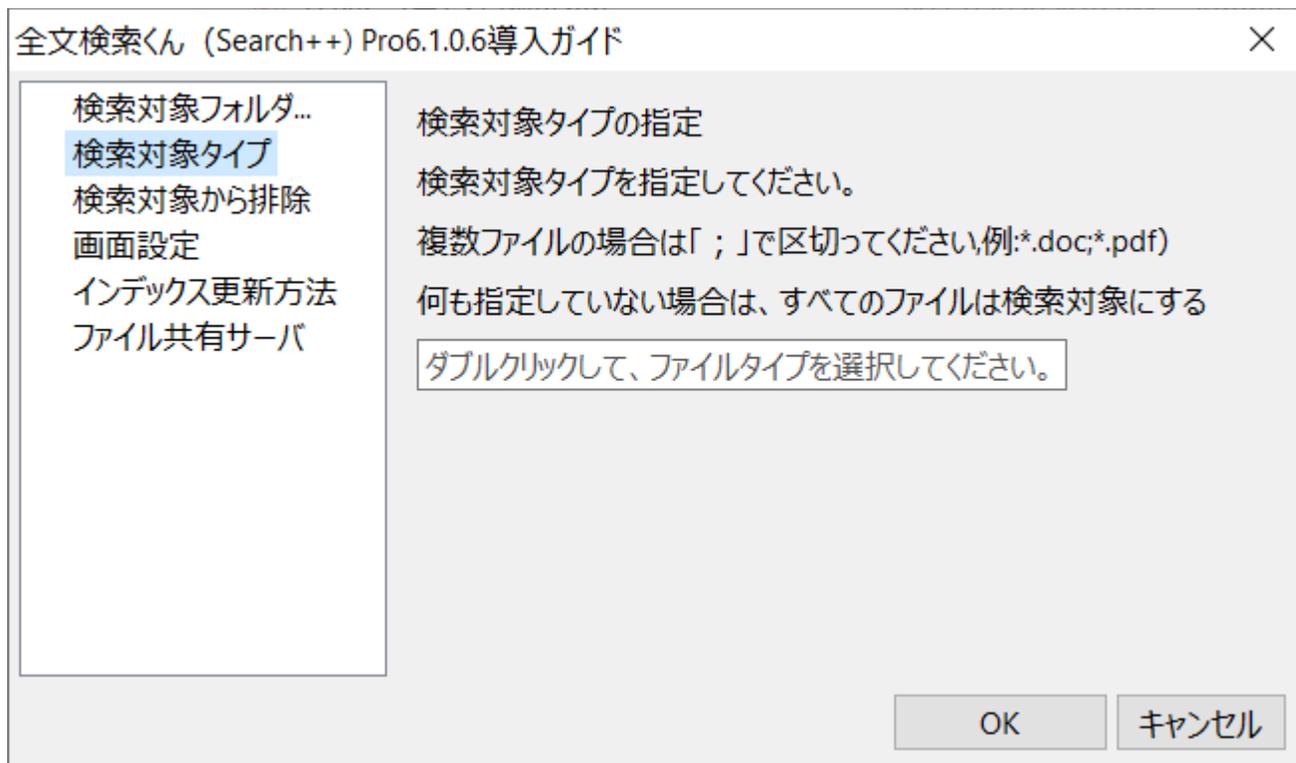


図4 検索対象タイプの指定

検索対象ファイルを指定する場合、図4の画面で拡張子を検索対象ファイルテキストボックスに入れてください、複数タイプのファイルを検索するには、「;」で区切ってください。（例：\*.doc;\*.pdf）、何も入力していない場合、すべてのファイルは検索対象になります。

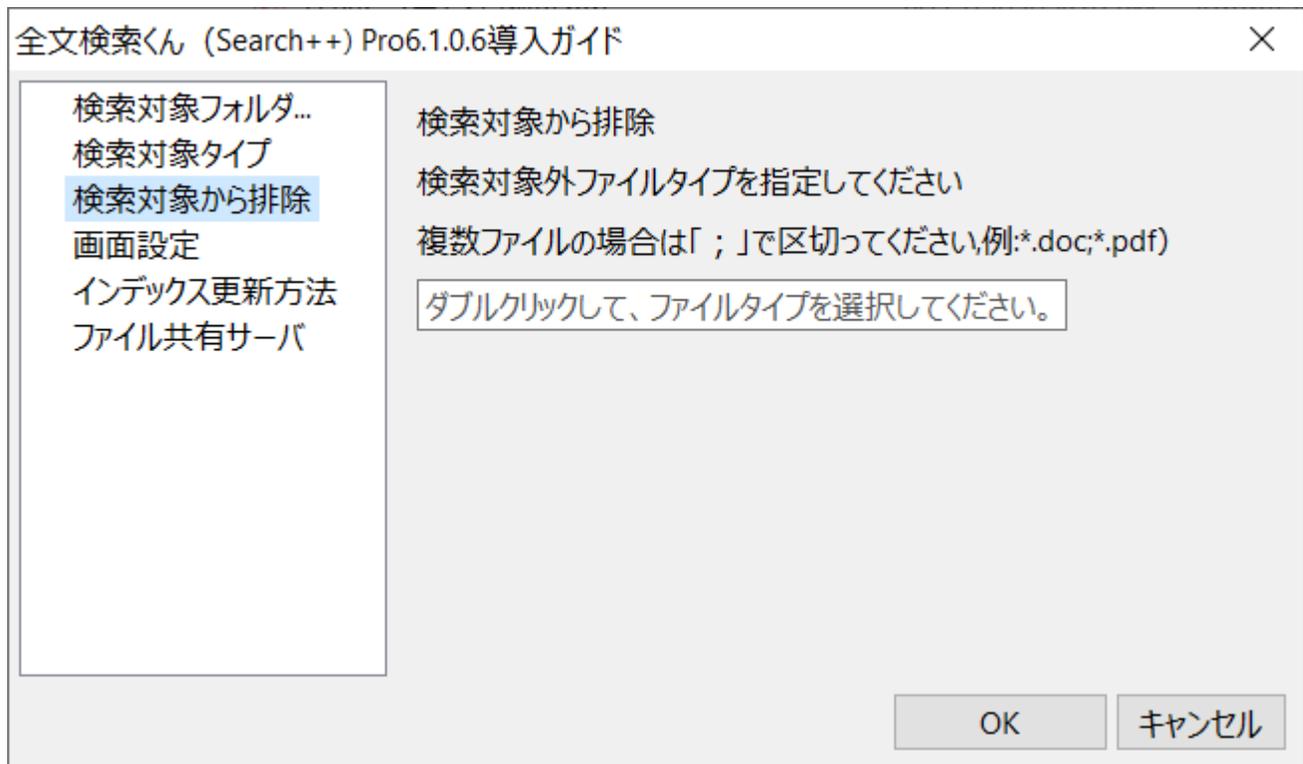


図5 検索対象外ファイルの指定

一方、その下のテキストボックスに検索対象外ファイルの指定ができます。指定方法は上記と同じですが、何も指定していない場合は、除外対象がないこととなります。なお、除外対象にフルパスを指定すると該当ファイルが除外されます。

Windows システムフォルダ、Windows システムの Temp フォルダはシステムフォルダなので、内容文検索の対象から自動除外しました。

本ツールの仕組みとして、インデックスを作成してから検索することになりますが、インデックスデータ保存場所のデフォルトはカレントユーザの Documents フォルダ下の IndexDataPro フォルダーになりますが、図1で「インデックスデータ保存場所の指定」フォルダボタンを押せば、任意の場所を指定することが可能です。

「オプション設定」画面で「画面設定」をクリックしたら、検索画面を呼び出すホットキーの設定、抜粋表示の行数設定などの指定ができますし、画面のカラーテーマに対して、白、黒タイプも選びます、見やすいほうに設定すれば結構です。

## 2. お知らせ画面

下記画面のように、30日間の試用期間があります。試用期間内下記お知らせ画面が表示して、全機能の試用ができます。ライセンス登録を行うと、この画面が消えます。

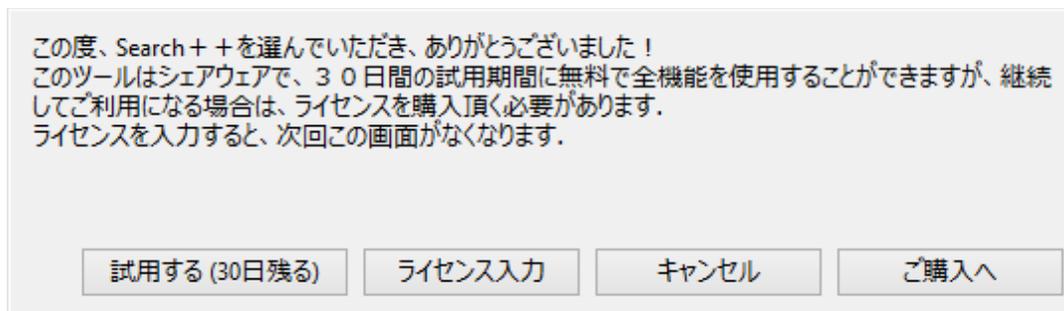


図6 試用版のお知らせ画面

## 3. メイン画面

メイン画面は以下です。

検索領域①には左から、「内容文の検索」と「ファイル名の検索」を選択する機能、インデックスグループの選択する機能、検索語を入力するテキストボックス、検索ボタン、インデックス情報の確認ボタン、購入サイト、お知らせボタンなどがあります。

領域②には検索結果リスト出力メニュー、アイコンサイズ変更メニュー、メニュー文字の表示・隠す機能があります。

領域③の左には検索結果リストを表示して、右側にファイルのテキスト内容を表示します。真ん中のスプリッターコントロールをドラッグすると、サイズの調整が可能です。検索結果リストの下にページの指定が可能です。「>」、「<」をクリックすると、前のページと次のページへ遷移できます。さらに、ページ番号を指定すると、該当ページまで遷移できます。検索結果リストの各行の右側に「開く」、「その他」ボタンがあります、ファイルを開いたり、削除したりすることができます。



図7 メイン画面

領域①に検索語を入れて、検索ボタンを押すと、検索が始まります。デフォルトは内容文に対しての検索ですが、「ファイル名の検索」を選択したら、ファイル名に対しての検索になります。

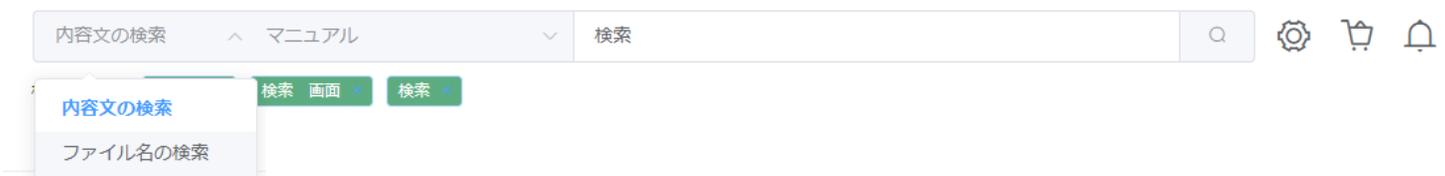


図8 検索タイプの選択

#### 4. 検索結果画面

検索結果画面は以下です。「拡張子」、「ファイル名」、「概要」、「時間」が表示されます。「▲」、「▼」をクリックすれば、降順、昇順でソートすることが可能です。ソートボタンの隣にフィルターボタンがあります、ファイルの拡張子に対してフィルターをかけることが可

能です。拡張子を選んで、「確認」を押すと、指定した拡張子のファイルだけが表示されます。「初期化」をクリックすると、フィルターを解除します。

「日付」項目の右側に「ファイル名で絞り込」テキストボックスがあります。検索結果リストに対してファイル名で絞り込みが可能です。

	拡張子	ファイル	概要	日付	ファイル名で絞り込
1	<input type="checkbox"/> DOC <input type="checkbox"/> PDF <input type="checkbox"/> JTD	<b>電子書籍.doc</b> C:\SearchKunTestDoc\ma nual\JapanManual	全文検索くん(Search++) For	2013/10/4 10:41:00	開く その他
2	<input type="checkbox"/> XPS <input type="checkbox"/> PPTX	<b>ebook_manual.pdf</b> C:\SearchKunTestDoc\ma nual\JapanManual	PageInfoExtracted全文検索く	2013/10/4 10:47:07	開く その他
3	<input type="checkbox"/> TXT <input type="checkbox"/> ODT <input type="checkbox"/> XLS	<b>manual.doc</b> C:\SearchKunTestDoc\ma nual\JapanManual	全文検索くん操作説明 【お断	2013/11/10 11:17:00	開く その他
4	<input type="checkbox"/>	<b>Ver13manual.jtd</b> C:\SearchKunTestDoc\ma nual\JapanManual	全文検索くん操作説明 0 V2.8.	2013/11/10 12:09:37	開く その他

図9 検索結果のソートと絞り込

検索結果リストの各行に「開く」、「その他」ボタンがあり、該当ファイルに対して「開くと共に検索」、「フォルダを開く」、「ファイルをシェアする」、「ファイル名をコピー」、「コピー」、「削除」、「移動」、「インデックス削除」各種操作可能です。

マウスを「概要」項目に移動させると、概要内容がポップアップします。

テーブルの右側にスプリッターコントロールがあります、これをドラッグすると、テーブルの横サイズを調整できます。



図 1 0 検索結果ファイルに対する各種操作

## 5. 検索画面に対する操作

検索結果リストの拡張子の左にある「>」をクリックすると、下にマッチした行が表示されると同時に右側の領域に文章の内容を表示され、検索キーも反転表示させます、さらに、該当行の右にある「>」をクリックすると、該当行の前後数行内容を表示します。

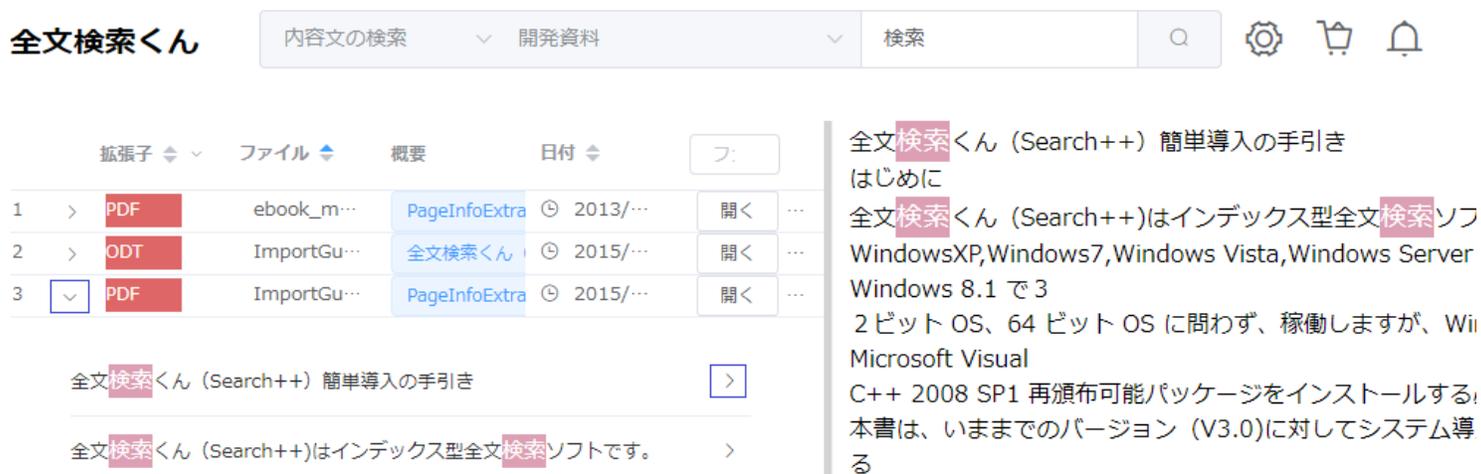


図 1 1 該当行の表示

テーブルの上に検索履歴が表示されています。過去検索した言葉をクリックすれば検索可能です。右側の×印をクリックすると、該当検索語が消えます。

内容文の検索    開発資料    確認

検索履歴：    検索 ×    画面 ×    システム ×    確認 ×

拡張子	ファイル	概要	日付	ファイル名
ODT	ImportGuide.odt	全文検索くん (Search-	2015/2/7 10:...	開く ...
PDF	ImportGuide.pdf	PageInfoExtracted全文	2015/2/7 10:...	開く ...
ODT	ImportGuidePro ...	全文検索くん (Search-	2015/2/5 22:...	開く ...
ODT	ImportGuidePro...	全文検索くん (Search-	2015/2/5 22:...	開く ...
PDF	ImportGuidePro...	PageInfoExtracted全文	2015/2/5 22:...	開く ...
XLS	ITA_flow.xls	障害のステータス遷移	2017/10/5 17...	開く ...
PDF	manual_pro.pdf	PageInfoExtracted全文	2016/1/10 11...	開く ...
DOC	manual.doc	全文検索くん操作説明	2013/11/10 1...	開く ...
JTD	manual.jtd	0 全文検索くん操作説明	2014/5/6 7:1...	開く ...
ODT	manual.odt	全文検索くん操作説明	2016/1/9 16:...	開く ...

総計 15 件    10件/ページ    < 1 2 >    1 ページ目へ

図 1 2 検索履歴

## 6. 実行モード

本ツールの実行モードは二つあります、非常駐モードと常駐モードです。

常駐モードではシステムトレイに入って、OS から検索対象フォルダーにファイルの変更などのお知らせがあれば、該当対象ファイルを変更対象リストに入れて、指定したインデックス化処理時点で対象リストのファイルをインデックス化します。インデックス化処理時点の指定は「インデックス」→「オプション設定」メニューの「インデックス更新方法」タブで設定できます。「手動更新」に設定した場合、メイン画面の「インデックス」→「即更新」メニューを押すと、処理対象リストのファイルをインデックス化します。

常駐モードでは、OS 起動時にプログラムが起動します。



図 1 3 常駐モード（トレーモードとも呼ばれます）

常駐モードでは、図 1 6 – A、図 1 6 – B のように処理状態は吹き出し Tooltip と Tooltip 両方で表示されます。

マウスをシステムトレイに全文検索くんのアイコンに移動していただければ Tooltip で状態を確認することができます。

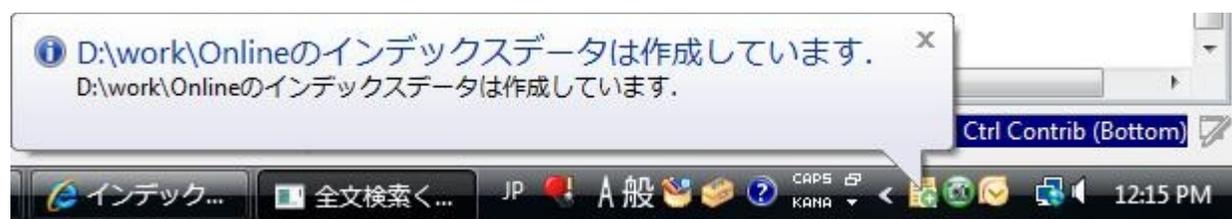


図 1 4 吹き出し Tooltip で実行状態などを表示します



図 1 5 Tooltip で実行状態などを表示します。

トレーアイコンに右クリックしたら、下記画面が表示され、以下の機能が利用できます。

- 1) 検索画面（図 7 のメイン画面）を開くこと
- 2) 実行状態を確認すること
- 3) インデックス作成プロセス、検索プロセスを中止させること
- 4) インデックスを再作成すること
- 5) 本ツールを終了させること



図 1 6 トレーアイコンの右メニュー

また、検索画面（メイン画面）を開くには、ユーザが設定画面で設定したホットキーで行えます。

非常駐モードでは、全文検索くんは OS 起動時に起動しないです、ヒットキーで画面を呼び出すことができません。インデックス更新も自動的におこないません。インデックスデータを確認する場合には、下記設定ボタンを押すと可能になります。必要に応じて「インデックス」→「即更新」ボタンを押して、手動でインデックスデータを更新します。



図 1 7 インデックスデータ設定の確認ボタン

二つモードの切替は前述の「図 1 オプション設定画面」で「OS 開始時自動的に起動し、常駐させ、インデックスデータを常に更新する」オプションをオンまたはオフにすれば実現できます。

## 7. 外部プログラムで開く

検索結果リストにある各ファイルに対して、「開く」ボタンをクリックすると、外部関連プログラムでファイルを開きます。

PDF ファイル、Excel ファイル、Word ファイル、Powerpoint ファイルに対して、「その他」→「開くと同時に検索」をクリックすると、ファイル開いた後検索をかけます。

PDF ファイルの場合は、該当箇所のテキストをハイライトしますが、Excel ファイル、Word ファイル、PowerPoint ファイルの場合は、青色で表示します。この機能を利用するには、PDF ファイルの場合、PDF Xchange Viewer または Adobe Reader のインストールが必要です。Excel、Word、Powerpoint ファイルの場合、MS Office のインストールが必要です。

上記の機能改善は前述のファイルタイプに限って、かつ、検索キーが単一キーの場合だけに適用されます。複数キーの場合はファイルを開くだけになります。

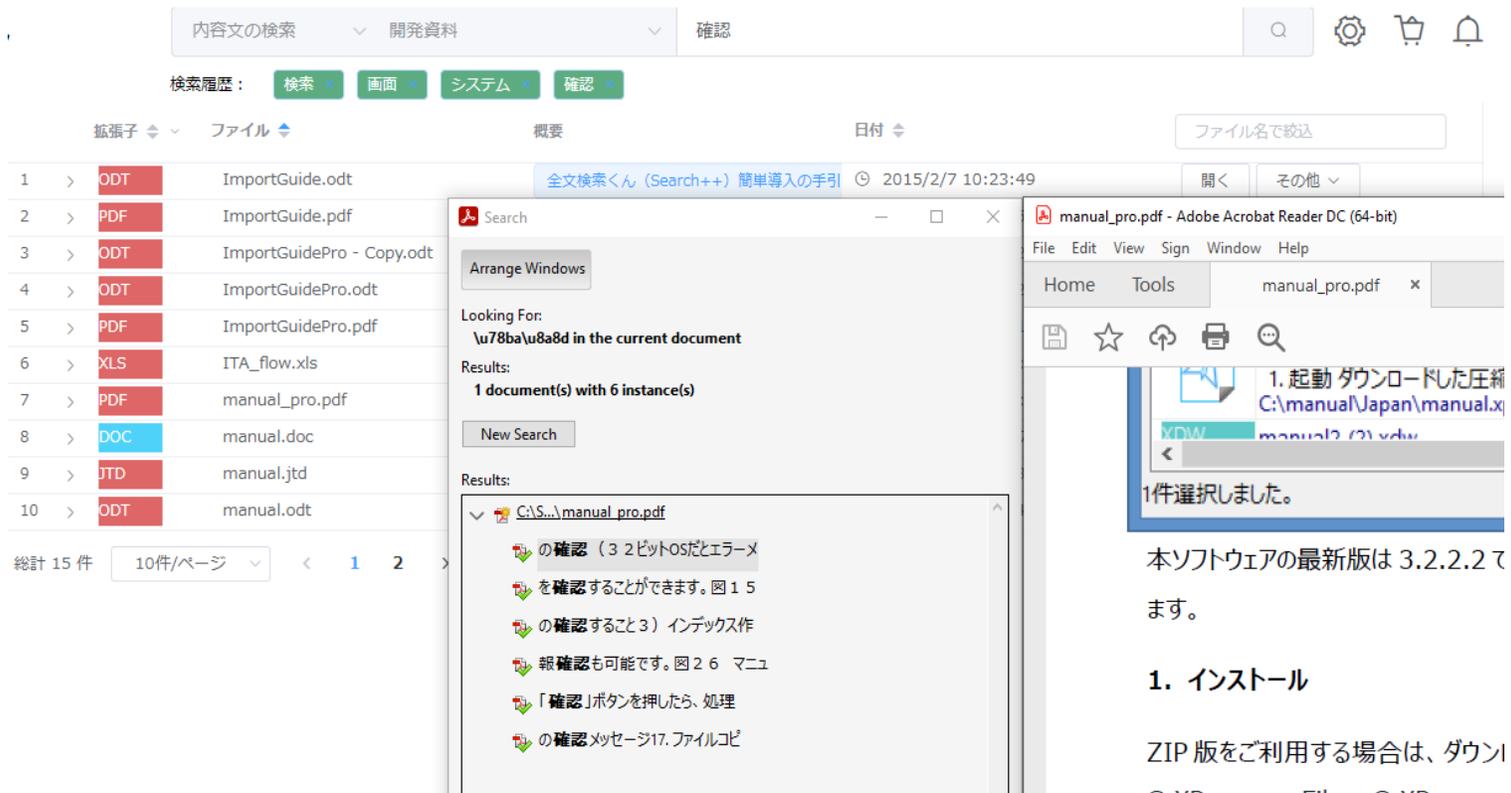


図 1 8 外部プログラムで PDF ファイルを開きます



図 1 9 外部プログラムで Word ファイルを開きます（該当文字は青色で表示されます）

## 8. 検索キーについて

複数検索キーの指定が可能です。複数検索語の場合、論理演算子 AND/OR を使用することになります。デフォルトの場合は AND として処理しますが、「インデックス」→「オプション設定」メニューで設定の切り替えが可能です。

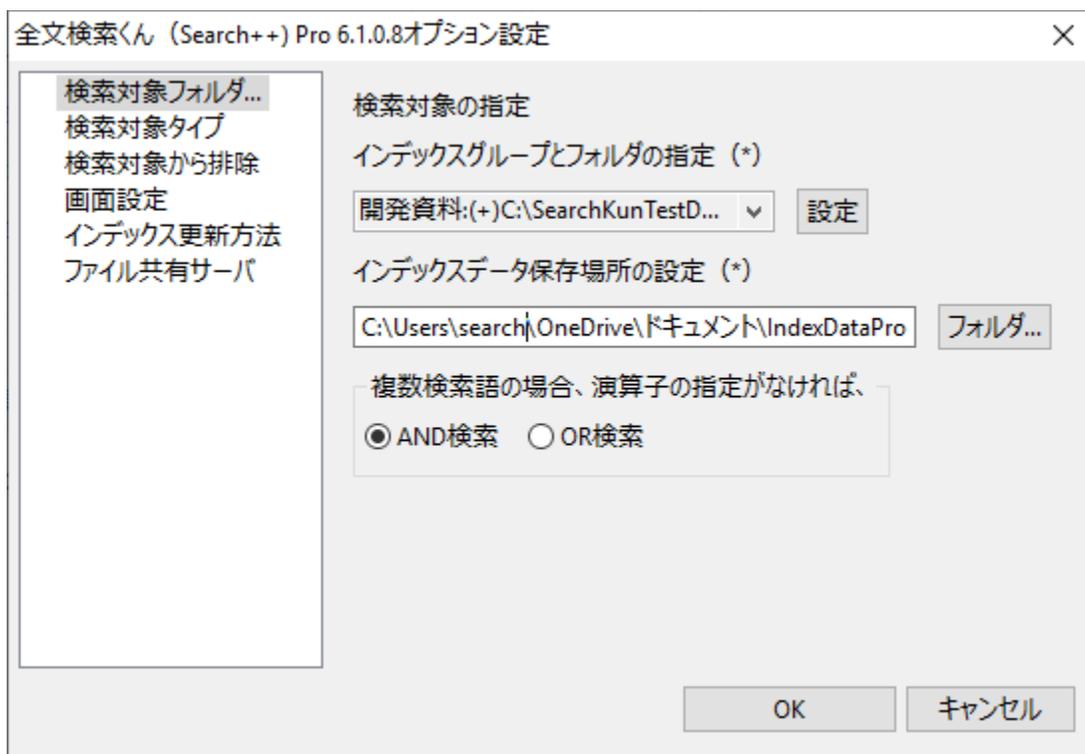


図 2 0 論理演算子の設定

AND または OR で直接入力して検索する場合、論理演算子として認識され検索を行います。



図 2 1 論理演算子の使用 (OR)

内容文の検索		開発資料		確認 AND 進捗	
検索履歴: 検索 画面 システム 確認 東京 確認 AND 進捗 確認 OR 進捗					
拡張子	ファイル	概要	日付	ファイル名で絞	
1	ODT ImportGuide.odt	全文検索くん (Search++)	2015/2/7 10:23:49	開く	その他
2	PDF ImportGuide.pdf	PageInfoExtracted全文検索	2015/2/7 10:24:53	開く	その他
3	ODT ImportGuidePro - Co...	全文検索くん (Search++)	2015/2/5 22:09:28	開く	その他
4	ODT ImportGuidePro.odt	全文検索くん (Search++)	2015/2/5 22:09:28	開く	その他
5	PDF ImportGuidePro.pdf	PageInfoExtracted全文検索	2015/2/5 22:10:15	開く	その他
6	XLS ITA_flow.xls	障害のステータス遷移 障害	2017/10/5 17:24:...	開く	その他

総計 6 件    10件/ページ    < 1 >    1 ページ目へ

図 2 2 論理演算検索 (AND)

近傍検索機能を実現しました。単語と単語の距離を検索条件として指定することで、より関連度の高い情報に絞り込むことができる検索方法を「近傍検索機能」と呼びます、近傍検索機能は特許業界でよく使われているようです。

下記画面のように検索キーワードとキーワードの間に単語の数を指定すれば、関連度の高い情報を検索できます。

**全文検索くん**

検索履歴: 検索 w4 画面

estDoc#sample1\_diff

manual\_pr o.pdf

C:%SearchKunT estDoc#manual ¥Morefile¥Test¥J apanManual

6

内容文の検索    追加アイテム    検索 w4 画面

PageInfoExtracte

2016/1/10 1 1:07:44

開く    その他

検索結果から言葉を拾って検索するには、該当「検索」サブメニューが表示されます。そのメニューをクリックすると、検索が始まります。

<<--ページ\_6-->>

図 8 - 1 検索結果からサーチキーを指定

5. 検索結果画面

検索結果画面は以下のようです。左側のテーブル名欄、ファイル情報欄があれば、右側にテスト表示領域があります。テキスト内容に検索キーワードの場合はそれぞれ違う色で反転されます。ヒット件数が1000件を超える場合テスト表示領域に対して、「行番号をつけて表エックを入れる、行番号を表示することになりテキスト表示領域のフォントサイズを変えるにボタンを押してください。

<<--ページ\_7-->>

図 3 オプション(検索データ)設定画面 >

「オプション設定」画面で「その他」タブをクリックしたら、検索画面を呼び出す... >

5. 検索結果画面 >

検索結果画面は以下のようです。左側のテーブルに結果ファイルアイコン欄、ファ... >

図 2 3 近傍検索

検索キーに\*を入れると、前方一致検索になります。



図 2 4 前方一致検索

## 9. 抜粋表示機能

該当内容の抜粋表示機能は、マッチした行の前後 5 行を表示する機能です。ヒットされたファイルをクリックすると、マッチした行をリストアップされます。各行の右の「→」をクリックすれば、抜粋表示が出ます。

拡張子	ファイル	概要	日付	ファイル名で絞
> PDF	ebook_manual.pdf	PageInfoExtracted全文検索	2013/10/4 10:47:...	開く その他
✓ PDF	manual_pro.pdf	PageInfoExtracted全文検索	2016/1/10 11:07...	開く その他

図3 オプション(検索データ)設定画面

インストールフォルダー名に日本語を使用しないかによって、問題解決できます。(例えば：c:\\$Searchplusplus または d:\\$searchplusplus にインストールする)

2. 導入ガイド：初回起動時だけの画面

導入設定画面が下記のように表示します。

<<--ページ\_2-->>

図3 オプション(検索データ)設定画面

検索対象として複数フォルダーを指定する場合は、上記画面にある「フォルダー…」ボタンを押して、図4のように、対象フォルダー

の左側にあるチェックボックスにチェックを入れてください。サブフォルダーを検索対象から排除する場合、該当サブフォルダーにチェックを外してください。図4で複数インデックスデータの作成が可能ですが、「インデックス名の指定」に名称を入力して、エンターキーを押せば、タブのタイトルに名称が表示され、インデックス名の指定になります。画面の右上に「追加」、「削除」、「クリア」ボタンを押せば、タブの追加、削除及び設定のクリアができます。設定が終わったら、「OK」ボタンを押して、インデックスの作成が始まります。

図25 抜粋表示機能

## 10. 各種メニュー

下記のように、メイン画面に各種メニューがあります。

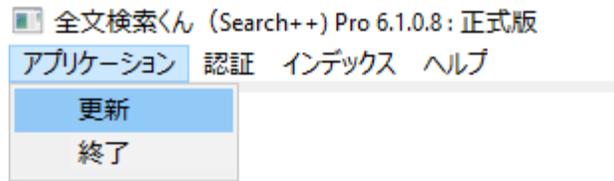


図 2 6 アプリケーションメニュー

アプリケーションメニュー→更新：メイン画面の内容を初期状態に戻す機能

アプリケーションメニュー→終了：全文検索くんを終了させる機能

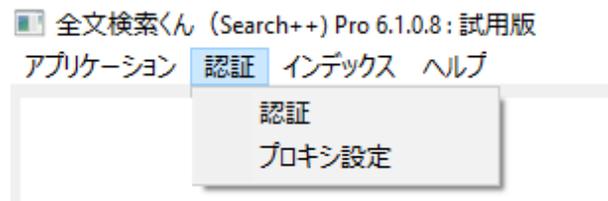


図 2 7 認証メニュー

認証→認証/解除：アプリケーションのステータスによって、メニューが変わります。試用版の場合は認証メニューになり、正式版の場合は解除機能になります。

認証→プロキシ設定：ユーザ様のインフラによって、プロキシサーバをご利用する場合があります、その場合、認証を通すには、プロキシを設定する必要があります。

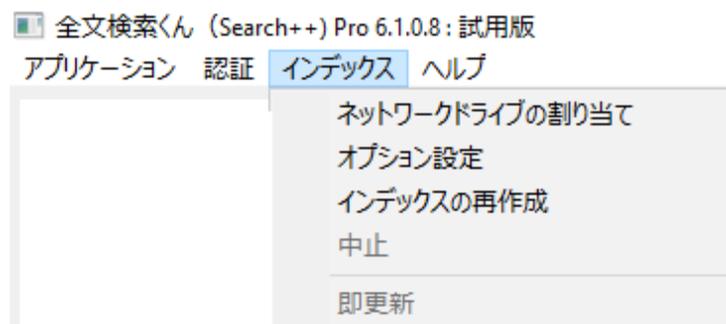


図 2 8 インデックスメニュー

インデックス→ネットワークドライブの割り当て：社内ネットワーク上ファイル共有フォルダを検索前に、この機能をご利用して、ドライブをアサインする機能です。アサインされたドライブが図 2 のように F: また G: などとして表示されたら、検索対象として設定することが可能になります。

インデックス→オプション設定：検索対象・インデックス保存場所・インデックス更新方法など必要な設定を行う機能です。

インデックス→インデックスの再作成：インデックスデータをゼロから作り直す機能です。

インデックス→中止：インデックス作成途中で一時停止する機能です。全文検索くんを再起動したら、停止させたところから継続でインデックスを作成します。

インデックス→即更新：常駐モードの手動更新の場合または非常駐モードの場合は、即更新ボタンを押すと、インデックス作成されていないフォルダ、ファイルに対してインデックスデータを追加します。

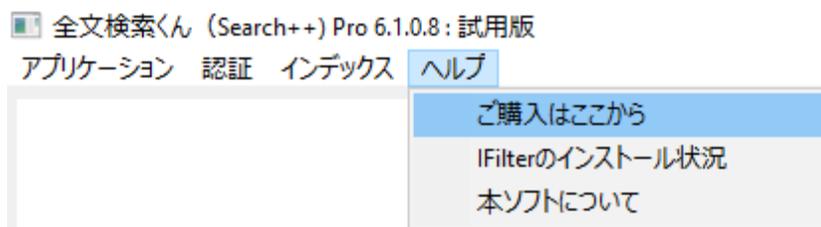


図 2 9 ヘルプメニュー

ヘルプ→ご購入はこちらから：購入ページを開く機能

ヘルプ→「IFilter のインストール状況」：縦 PDF の検索など、外部 IFILTER を利用する場合は IFILTER をインストール必要です。このメニューをクリックすると、IFILTER のインストール状況を表示します。IFILTER について、後で説明します。

ヘルプ→本ソフトについて：インストールフォルダなど全文検索くんの各種情報を表示する機能。



図 3 0 インストールフォルダなど各種情報

## 11. ホットキーについて

オプション画面でホットキーの設定ができます。設定したホットキーを押すと、全文検索くん (Search++)が最前面になります、つまり、カレントプロセスとの前後関係の調整を行います。ただ、カレントプロセスは Adobe Reader の場合 (例えば、Adobe Reader で PDF を開いている場合)、Adobe Reader の保護モード設定 (デフォルト : オン) をオフにしないと、このような調整が効きません。

保護モードを外す方法は Adobe Reader のバージョンによって違います。

Reader X 以下では「編集」メニュー>「環境設定」の「一般」タブを選んで、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにする必要があります。

Reader XI では「編集」メニュー>「環境設定」の「セキュリティ (拡張)」タブを選んで、「サンドボックスによる保護」領域で、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにしてください。

## 12. アンインストール機能

アンインストールの場合、同梱のツール (ZIP 版 : DeleteTool.exe、インストーラ版 : uninstall.exe) をクリックしてください。

正式版をアンインストールする際、自動的に認証解除を行います。WinXP の場合、アンインストール機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。(ダウンロード先: <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

## 13. メモリ管理ツール

ファイルのサイズが大きいまたはファイルに画像などが大量にある場合、インデックス作成処理では、必要となるメモリ量がツールの最大メモリ値設定値を超え、下記画面が表示されます。該当ファイルを対象外にするか最大利用メモリを変更するかが選べます。何もしない場合、10 秒を経つと、該当ファイルをスキップします。

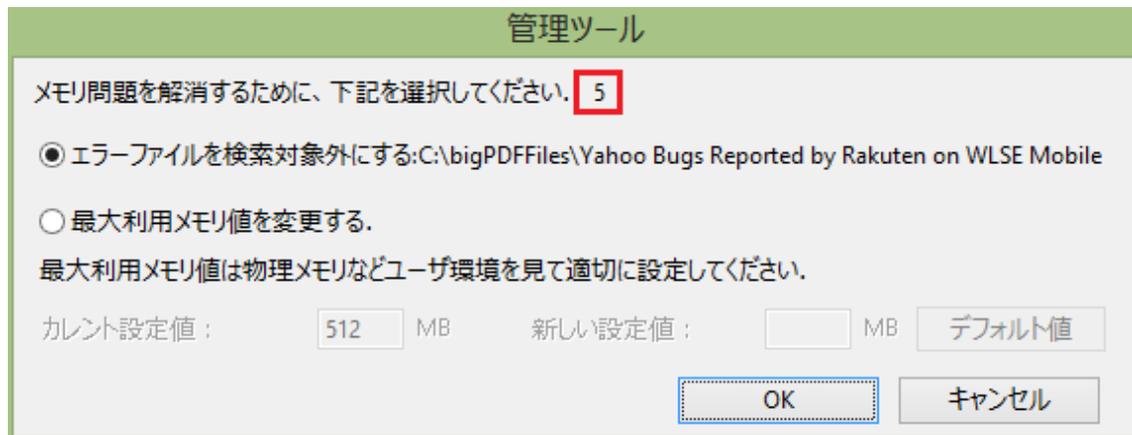


図 3 1 管理ツール

ただし、設定値が大きすぎ、システムの処理能力外になり、ツールが起動できなくなった場合には、このメモリ管理ツールを手動で起動させ、最大利用可能メモリを減らしたり、デフォルト値に戻したりすることもできます。メモリ管理ツールの手動起動には MemAdm.exe をクリックしてください。

#### 14. インデックスの作成、更新

インデックス作成はファイルの数によって、時間がかかる場合があります。その時、ユーザは一旦インデックスの作成を中止させることができます。

「インデックス」→「中止」メニューをクリックすれば、一旦中止になります。中止になるまでインデックス化処理済みファイルに対して、検索することができます。

中止後、本ソフトを再起動すれば、システムは中止させた場所を検知し、インデックス作成を再開します。

また、ファイルのサイズなどの原因で中断した場合、その後、メモリ管理ツール画面で利用可能メモリを増やしたり、エラーとなる対象ファイルをスキップしたりすることも可能です。

常駐モードでご利用している場合、全文検索くんはインデックス更新を自動的に行うことが可能です。図 5 で示したように「アイドル時間が続くと更新する」、「指定時刻で更新する」、「手動で更新する」のオプションがあります。「アイドル時間が続くと更新する」とは、指定したアイドル時間が続くと、全文検索くんは今まで OS から通知した変更があるファイルを対象にして、インデックスデータを更新します。「指定時刻で更新する」とは業務の忙しい時間帯を避けて、たとえば、お昼時間などを指定して、対象ファイルをインデックス化することです。「手動で更新する」とはユーザが自ら更新ボタン(メイン画面にある)を押して、インデックス更新を行うことです。これらの指定によって、CPU、メモリに負荷が重いインデックス化処理をアイドル時間を利用して実行可能となります。

さらに、指定時刻で更新する場合、自動シャットダウンも選択可能です。毎日夜中にインデックス更新を設定して、さらに自動シャットダウンオプションを付けると、インデックスデータを処理してから、「シャットダウンします」ようなメッセージが出て、10秒以内にキャンセルをしなければ、シャットダウンを行います。

非常駐モードでメイン画面の「即更新」ボタンを押すと、インデックスデータ作成時点での対象ファイル情報と現時点での最新情報を比較して、変更のあるファイルを対象にインデックスデータを更新します。

社内LANで検索システムを構築する場合、インデックス更新処理がエージェントマシンにWindowsサービスとして登録することが可能です。その時、Windowsサービスの回復属性を設定するために管理者パスワードが必要です。インデックス更新処理にエラーが発生したら、全文検索くんのインストールフォルダ下のsearchplusplus.logファイルにエラー情報が出力されます。

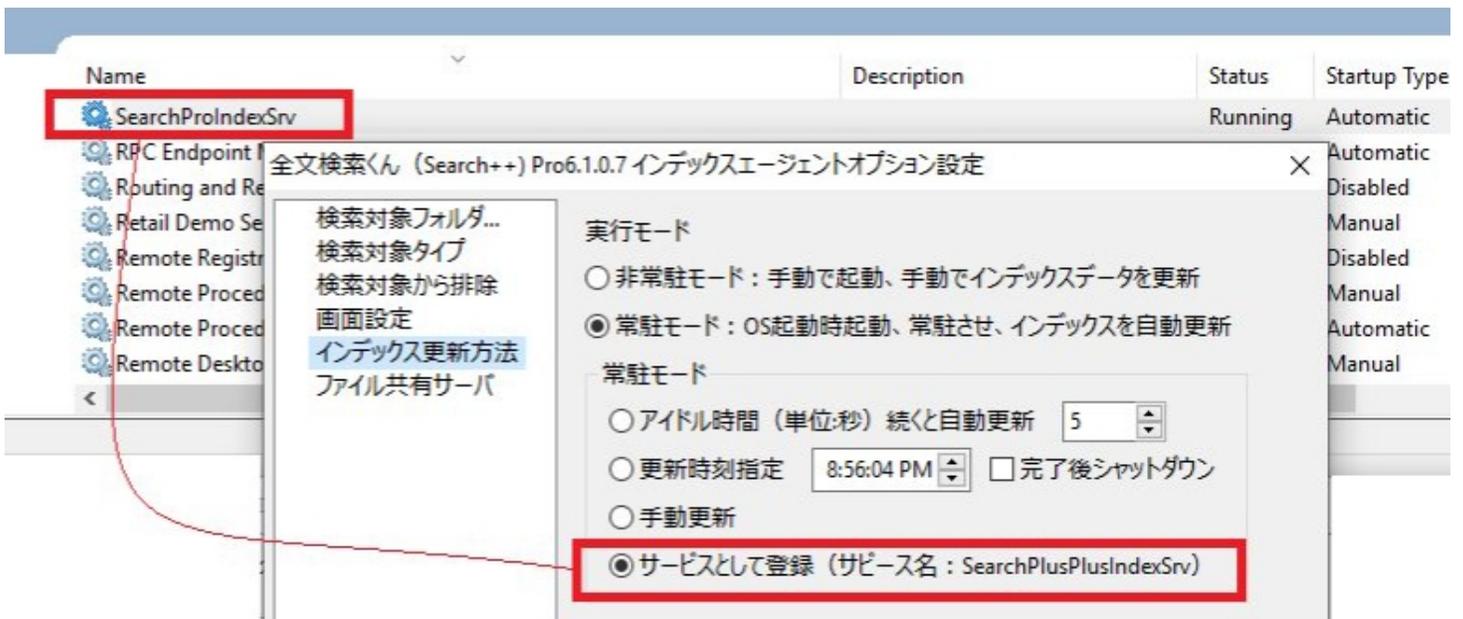


図 3 2 インデックス処理サービスの登録

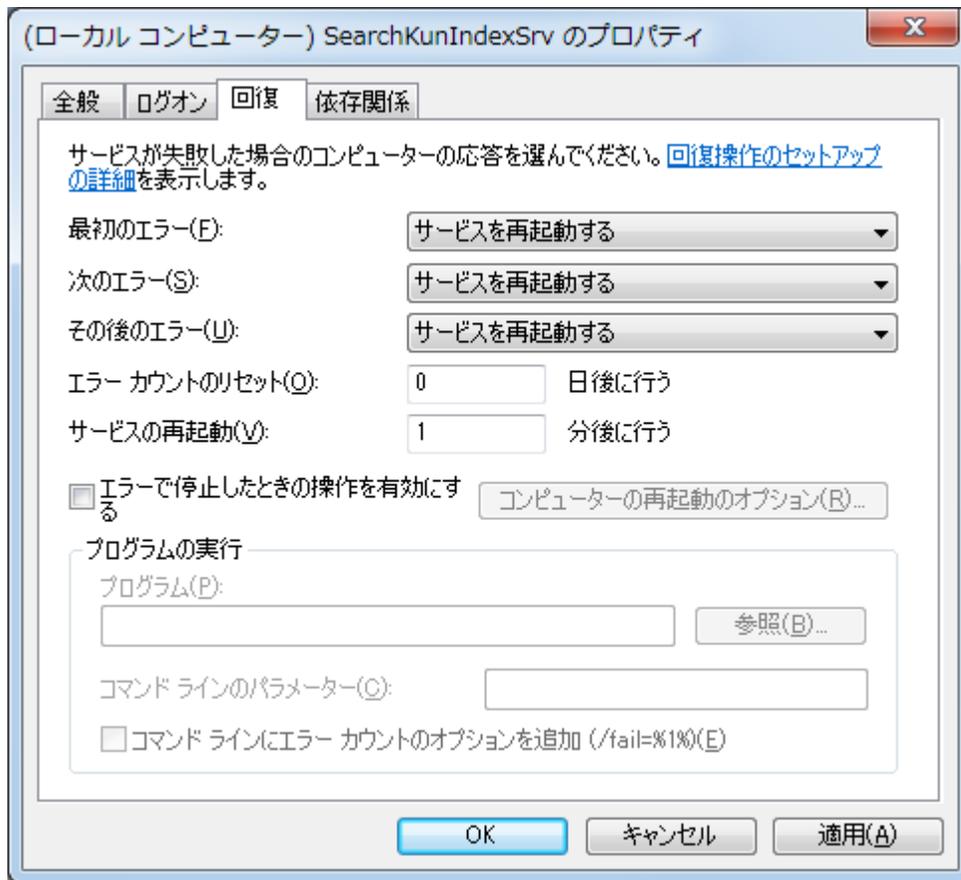


図 3 3 登録したインデックスサービスの属性：回復設定

## 15. IFilter 機能

IFilter をサポートします。それぞれの IFilter をインストールしたら、一太郎、Docuwork、縦書き PDF、XPS のの検索ができます。  
 (IFilter のサポート情報及びダウンロード先は <http://www.searchplusplus.jp/link.html> を参照してください、  
 config.xml の設定を変更する場合、全文検索くんを先に終了させる必要があります。)

同梱の IFilterStatus.exe をクリックすれば、全文検索くんの実行環境に上記 IFilter が入っているかどうかのチェックができます、  
 入っていなければ、ダウンロード先のウェブサイトを開き、ダウンロード及びインストールをお願いします。この機能をメニューから起動  
 させるには、「設定及びその他機能」メニューの「IFilter のインストール状況」サブメニューをクリックしてください。

WinXP の場合、この機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](#) のインストールが必要です。  
 (ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

一太郎文章に対して、一太郎本体をインストールしてある場合は、IFILTER で検索できない文章でも、一太郎本体の機能を利用  
 して、インデックスデータを作成して、検索が可能です。ファイルの内容によって、一太郎フォントが認識できない場合は下記  
 の画面がでますが、「確認」ボタンを押したら、処理が進みます。

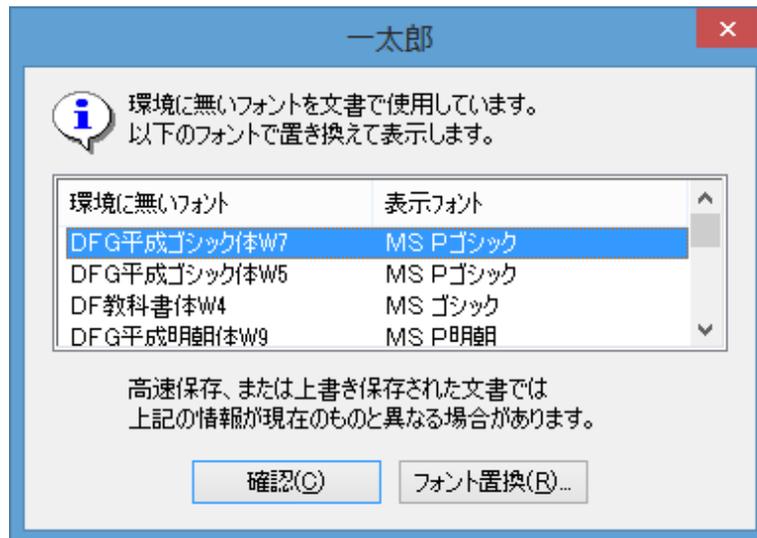


図 3 4 一太郎からの確認メッセージ

## 16. ファイルコピー・移動・削除

検索結果リストのファイルの右側メニュー領域に「コピー」、「移動」ボタンを押せば、コピー先・移動先の指定ができます。指定場所に同名ファイルが存在している場合、下記のダイアログが出て、上書きするかどうかを指定できます。

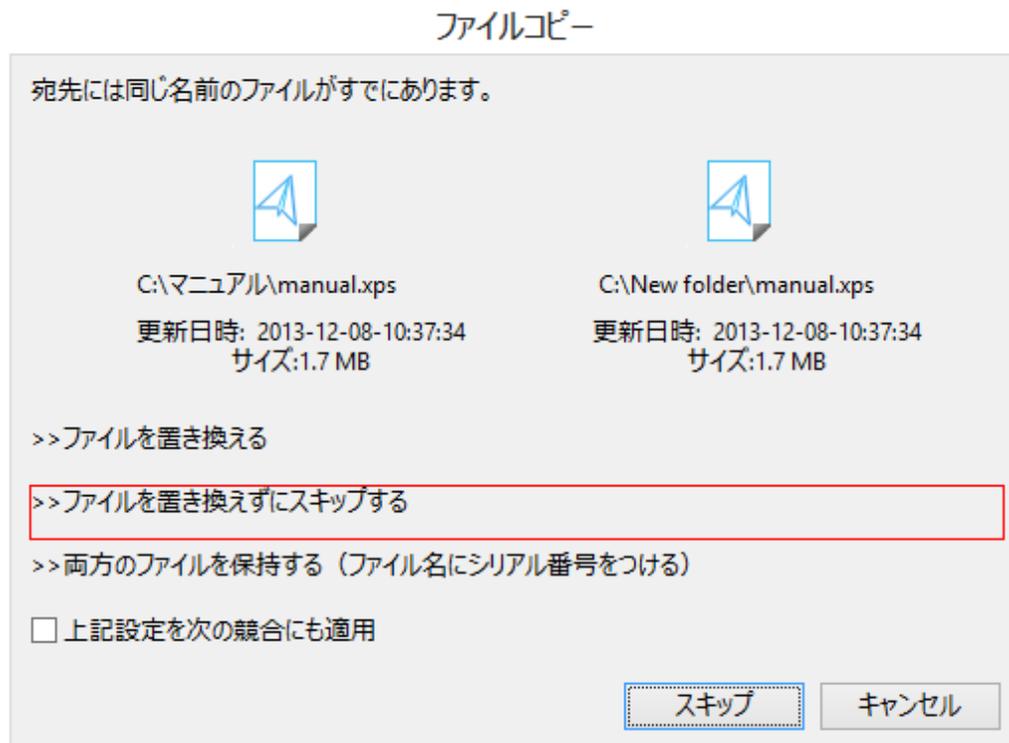


図 3 5 ファイルコピー、移動

## 17. ネットワーク認証

本ツールは1台のPCにつき1ライセンスが必要です。ライセンスを複数のPCで同時に共有することはできません。メイン画面の「認証」→「認証」ボタンを押して、ライセンスキーを押すと、ネットワーク認証を行います。

認証済みの場合、該当メニューは「認証解除」と変わって、認証の解除を行うことができます。認証解除したら、他のPCでライセンスを利用することが可能になります。ですので、OSを入れ替える時、まず認証を解除して、OSを入れ替えたあと、認証すると、新しいOSでライセンスの利用することが可能になります。

ネットワークに接続していない場合には、support@searchplusplus.jpにメールを送ってください、メールでの認証も受付ております。

標準版は32ビットOS・64ビットOSの両方をサポートしていますが、32ビットOSの制限で、アプリケーションの最大利用メモリは1GB以下に制限されています。Pro版では64ビットOSだけをサポートしています、32ビットOS上の1GBの制限がなくなり、ご利用PCのメモリは大きければ大きいほど、処理できるファイルがより大きいです。全文検索くんの最大利用メモリは同梱のMemadm.exeで設定できます。

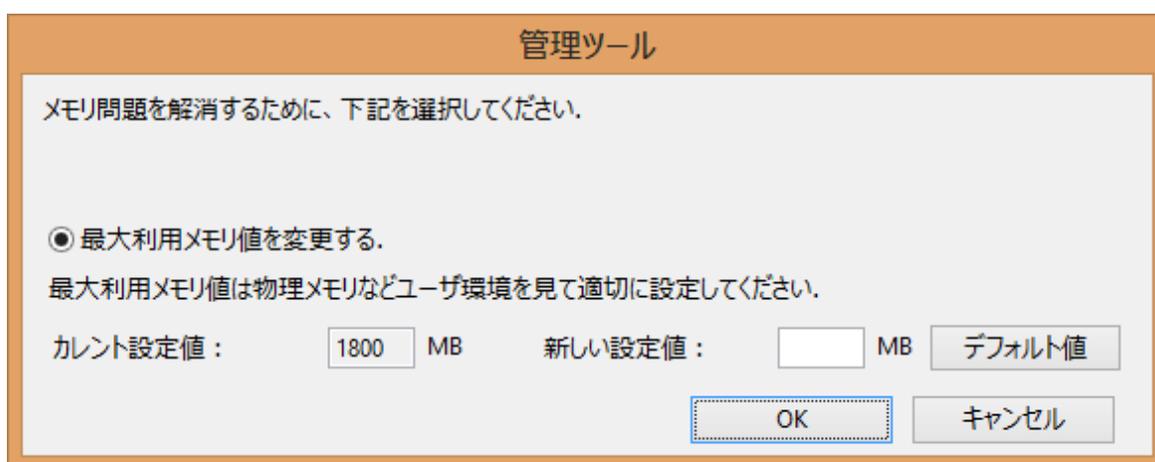


図 3 6 管理ツール

全文検索くんはデスクトップだけではなく、設定を変えれば、エージェント版またはクライアント版にもなります。LAN上ファイルサーバのシェアフォルダを利用して社内検索システム構築も可能です。ソフトウェア同梱の社内システム構築図.pdfをご参照ください。

## 18. ファイルシェア機能

社内LANでファイルをシェアすることが可能です。メイン画面の検索結果リストに「その他」→「ファイルをシェアする」をクリックすると、シェアリンクを作成してコピーします。そのリンクを社内LANを利用するほかの方に送ると、ファイルをシェアすることになります。

この機能は全文検索中のHTTPサーバを利用しています。HTTPサーバを確認するには、メイン画面から「インデックス」->「オプション設定」メニュー->「ファイル共有サーバ」をクリックしてください。

本ツールの全機能に対して、同じマシンで30日間無料で試すことが可能です。導入日は使用期間の開始日になります。各種お問い合わせについては、support@searchplusplus.jpへお願いいたします。